



平成 22 年度 第 2 回 JICA アフリカ環インド洋経済圏貿易投資促進研修
 - JICA Facilitating Trade and Investment in Indian Ocean-Rim Economic Region -



(JICA 東京センターにて講義)

研修期間：平成 22 年 9 月 7 日～9 月 24 日 (3 週間)
 研修場所：神戸/東京
 研修内容：環インド洋経済圏のアフリカ諸国における貿易投資促進に関する講義/視察
 参加研修員：9 名 (エチオピア 1、ケニア 2、
 モーリシャス 1、モザンビーク 1、
 タンザニア 2、ザンビア 2)

当財団では、独立行政法人国際協力機構 (JICA) からの委託を受け、アフリカ環インド洋経済圏貿易投資促進研修を実施しました。本研修は、近年の日本政府の対アフリカ支援強化の流れ*¹を受けて、環インド洋経済圏に属するアフリカ諸国とアジア諸国の経済関係が貿易・投資促進という観点から強化されることを目的として、2009 年度から 3 カ年の計画で実施しています。本年は、エチオピア・ケニア・モーリシャス・モザンビーク・タンザニア・ザンビアから、貿易振興及び投資促進を担当する政府職員を 9 名迎え、神戸市内及び東京で 3 週間の研修を行いました。

環インド洋経済圏とは、インド洋を地理的に取り巻く国々が形成している経済圏であり、近年、アジアとアフリカの間をはじめ、同経済圏内の経済的結びつきが強まっています。環インド洋経済圏内の諸国の大半は『環インド洋地域協力連合』に所属しており、日本も対話パートナーとなっています。アジア情勢に目を向けると、第二次世界大戦後、日本が先導役となり、アジア NIES・東南アジアへと目覚ましい経済発展を遂げ、近年では中国・インドの台頭が顕著に見られます。研修員は、本研修を通して、刻々と変化するアジア情勢への理解を深め、環インド洋経済圏内のさらなる関係強化のためのヒントを得ると共に、アジア経済発展の歴史と教訓に学び、貿易・投資促進による自国の持続的発展のための政策案を作成しました。日本での研修を修了した研修員は、高度に成熟した日本の現場での視察を補完するために、マレーシアでの 1 週間の研修に参加しました。



—環インド洋地域協力連合—



環インド洋地域協力連合とは、1995 年に加盟国域内での貿易と投資の活性化を目的として設立された国際組織です。

■：加盟国 ■：対話パートナー

(出所：Wikipedia)

*1：日本の対アフリカ外交は、アフリカ開発会議(TICAD)でのプロセスを重要な柱としています。2008 年 5 月に開催された第 4 回会議(TICADIV)では、日本による 2012 年までのアフリカ向け ODA 倍増及び民間投資倍増支援を含む様々な支援策を「横浜行動計画」として表明し、公約実現に向けて支援を行っています。



～研修を振り返って～

日本から遠く離れたアフリカ大陸から訪れた9名の研修員、その大半が初来日であり、研修開始当初は、慣れない日本での生活環境・時差への対応に戸惑う様子が見受けられました。しかしながら、研修員同士は、社会・文化的背景が類似しているためかすぐに打ち解け、一緒に、日本語の日常会話やお辞儀など日本特有の習慣を覚えて実践するなど、自国との文化の違いを楽しみながら徐々に日本での生活に慣れていきました。

3週間の研修の中で、研修員は、様々な切り口から、『東アジアの奇跡』と称されたアジア諸国の急速な経済成長と政府の役割、導入された産業政策と各国特有の発展モデルを学びました。講義中、研修員は、アジア及びアフリカ諸国での実地調査に基づく講師からの情報や提言に熱心に耳を傾け、今後、自国がアジア諸国の発展モデルを応用し、どのような貿易・投資促進政策を取るべきか真剣に議論を交わしました。

また、本研修では、日本の経済発展を下支えしてきた中小企業に着目し、政府の中小企業振興策だけでなく、中小企業の製造現場における生産性向上の取り組みである『カイゼン』の概念と具体的な活動内容を学ぶため、神戸市の産業団地内に立地するニット丸編機のトップメーカー、(株)福原精機製作所を訪問し工場の製造ラインを見学しました。研修員からは、



(株)福原精機製作所の工場見学

「日本人の勤勉で時間厳守であり協調性を重んじる国民性、カイゼンの積み重ねによる業務効率向上が日本経済発展の秘訣であることを学んだ。この経験を、自国の中小企業育成だけでなく、日常業務においても活かしていきたい。」との力強い意見が寄せられました。中小企業の実行が参加国の地場産業発展への大きな一歩となることを願っています。

環インド洋経済圏から参加した研修員の抱える課題や関心事項は共通しており、研修中は、休憩時間や食事中にも、様々なテーマで意見交換し、交流を深めていたことが印象的です。アジア諸国は外資誘致による輸出産業育成・域内貿易拡大を経済発展の原動力に急成長を遂げましたが、研修参加各国では、現時点で、環インド洋経済圏における域内貿易拡大及び経済協力強化を自国の成長戦略の主要な柱として位置付けていないようです。そのような状況下で、本研修は、参加国政府の貿易・投資部門で要職にある職員が、環インド洋経済圏の現状と可能性への理解を深め、同経済圏に位置する国としての利点を自国の発展に繋げるために今後どのような政策を取るべきかを共に考える機会を提供することができました。結果として、貿易・投資促進による自国の発展のみならず、地域益追求のための連携を視野に入れた発展的な意見交換がされたことは非常に意義深いと感じています。離日直前には、「異国の地で孤独な思いをすることなく過ごすことができ、今回のグループは日本における家族のようだ」と研修員から発言があったように、研修を通して培った研修員の絆は深く、この関係が、今後の各国のさらなる連携強化に繋がることを期待しています。

研修担当：宮崎 紘子

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)兵庫国際センター

研修指導者：神戸大学大学院国際協力研究科 高橋 基樹 教授

講義/視察先：神戸大学/金沢大学/東京大学/武蔵大学/上智大学/文教大学/九州大学

JICA 本部/アジア経済研究所/ビコーズインスティテュート(株)/生活協同組合コープこうべ/住友化学(株)/キリンビアパーク神戸/神戸華僑歴史博物館/有サミット・ラボ/株)福原精機製作所

【順不同】